

第2期ロジスティクス環境会議

第2回本会議

2007年3月15日(木)14:00～16:00

ホテルニューオータニ 地下1F 舞の間

次 第

第1部 ロジスティクス環境会議・本会議

1. 開 会

2. 経過報告

3. 議 事

1) 2006年度活動報告及び2007年度活動計画(案)について

(1) 研究会及び委員会について

(i) グリーン物流研究会

(ii) CO₂削減推進委員会

(iii) グリーンサプライチェーン推進委員会

(2) 情報提供活動について

2) 2006年度収支決算(案)及び2007年度収支予算(案)について

4. 休 憩

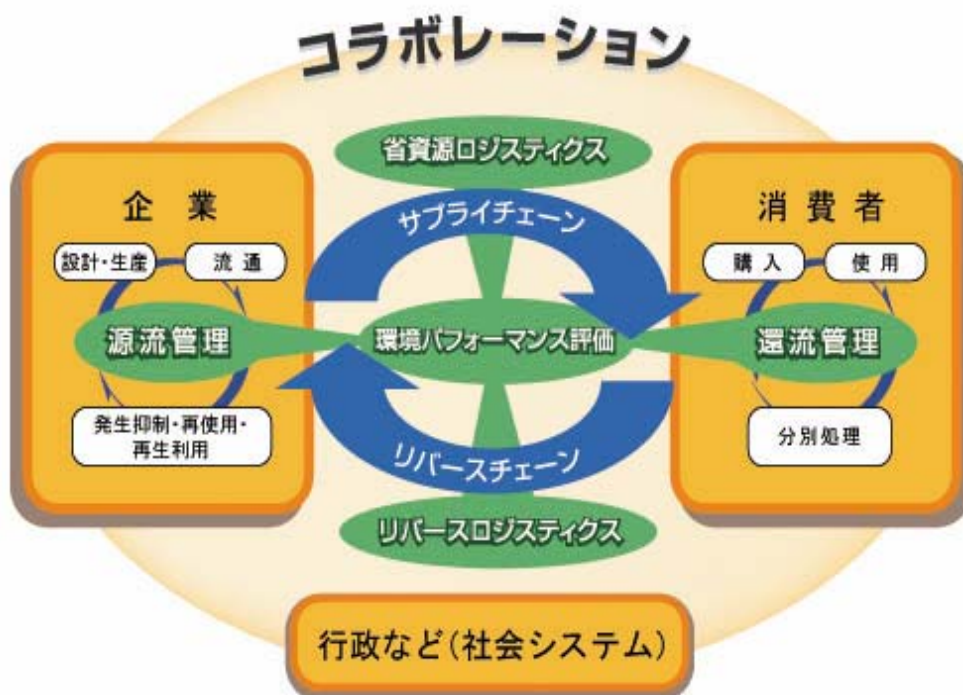
第2部 関係各省の最新施策動向について

- ・ 経済産業省
- ・ 国土交通省
- ・ 農林水産省

5. 閉 会

以 上

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

（第 1 回本会議／2003 年 11 月 13 日）

「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

2006年3月15日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境会議

第2期ロジスティクス環境会議 組織図

資料1-3
2007.3.15

(敬称略)2007.3.15現在

議長:三村 明夫
新日本製鐵(株) 代表取締役社長

副議長:後藤 卓也
花王(株) 取締役会 会長

副議長:岡部 正彦
日本通運(株) 代表取締役会長

副議長:鈴木 敏文
(株)イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO

ロジスティクス
環境会議(本会議)

メンバー:96社

企画運営委員会
【18名】

委員長:杉山 武彦
一橋大学 学長

副委員長:増井 忠幸
武蔵工業大学
環境情報学部 学部長

副委員長:高橋 信直
新日本製鐵(株)
営業総括部 部長

副委員長:荒木 恒美
日本通運(株)
環境部長

【事務局】
ロジスティクス
環境推進センター

グリーン物流研究会
【90名】

幹事:下村 博史
(株)日本総合研究所 研究事業本部 上席主任研究員

副幹事:鈴木 邦成
文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 准教授

副幹事:河野 義信
新日本製鐵(株) 営業総括部 マネジャー(物流技術)

副幹事:黒坂 真一
(株)ヤマタネ 情報本部 主席研究員

CO2削減推進委員会
【57名】

委員長:増井 忠幸
武蔵工業大学 環境情報学部 学部長

副委員長:高松 孝行
トヨタ自動車(株) 物流企画部 主査

副委員長:大山 茂夫
第一貨物(株) 営業本部 業務第二部 部長

副委員長:石崎 雅規
東芝物流(株) 物流技術部 品質・環境管理部 参事

グリーンサプライチェーン推進委員会
【32名】

委員長:山本 明弘
(株)日通総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長

副委員長:矢野 裕児
流通経済大学 流通情報学部 教授

副委員長:恒吉 正浩
味の素(株) 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長

副委員長:菅田 勝
リコーロジスティクス(株) 経営管理本部 副本部長
(株)三愛ロジスティクス 取締役

第 2 期ロジスティクス環境会議

第 1 回本会議後の経過報告

1. 企画運営委員会（計 2 回）

1) 第 3 回企画運営委員会

日時：2006 年 9 月 22 日(金) 15:00-16:40

会場：J I L S

議事：①研究会、委員会の組織体制（案）及び活動内容（案）について
②研究会、委員会間の情報共有について
③活動目標について

2) 第 4 回企画運営委員会

日時：2007 年 1 月 19 日(金) 10:30-12:00

会場：J I L S

議事：①研究会、委員会の 2006 年度活動報告及び 2007 年度活動計画（案）について
②第 2 回本会議について
③シンポジウムの開催について
④CGL メンバー企業の CO₂ 排出量の収集等について
⑤行政動向

2. グリーン物流研究会（計 5 回）

1) 第 1 回グリーン物流研究会

日時：2006 年 9 月 25 日(月) 14:00-17:00

会場：グランパーク三田

2) 第 2 回グリーン物流研究会

日時：2006 年 10 月 26 日(木) 14:00-17:00

会場：浜松町東京會館

3) 第 3 回グリーン物流研究会

日時：2006 年 11 月 30 日(木) 14:00-17:00

会場：グランパーク三田

4) 第 4 回グリーン物流研究会

日時：2007 年 1 月 25 日(木) 14:00-17:00

会場：全共連会議室

5) 第 5 回グリーン物流研究会（見学会）

日時：2007 年 3 月 5 日(月) 13:45-17:30

会場：(株)ブリヂストン 東京工場

3. CO₂削減推進委員会（計 4 回）

1) 第 1 回 CO₂削減推進委員会

日時：2006 年 9 月 29 日(金) 15:00-17:00

会場：砂防会館 別館

- 2) 第2回CO2削減推進委員会
日時：2006年10月27日(金) 10:00-12:00
会場：虎ノ門パストラル
- 3) 第3回CO2削減推進委員会
日時：2006年12月14日(木) 15:00-17:00
会場：虎ノ門パストラル
- 4) 第4回CO2削減推進委員会
日時：2007年2月6日(火) 15:00-17:00
会場：虎ノ門パストラル

4. グリーンサプライチェーン推進委員会（計4回）

- 1) 第1回グリーンサプライチェーン推進委員会
日時：2006年10月6日(金) 15:00-17:00
会場：J I L S
- 2) 第2回グリーンサプライチェーン推進委員会
日時：2006年11月10日(金) 15:00-17:30
会場：J I L S
- 3) 第3回グリーンサプライチェーン推進委員会
日時：2007年1月19日(金) 14:00-17:00
会場：三田NN
- 4) 第4回グリーンサプライチェーン推進委員会
日時：2007年2月15日(木) 14:00-17:00
会場：グランパーク三田

以 上

第2期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、2006 年度活動内容及び 2007 年度活動計画(案)について

研究会/委員会	活動方針	2006 年度活動内容	2007 年度活動計画 (案)
<p>グリーン物流研究会 (登録人数: 90 名)</p>	<p>環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策を研究する。</p>	<p>1. 研究会 (講演会形式) 1) 第 1 回研究会 テーマ「ロジスティクスと環境」 2) 第 2 回研究会 テーマ「改正省エネ法 (荷主対応)」 3) 第 3 回研究会 テーマ「鉄道へのモーダルシフト」 4) 第 4 回研究会 テーマ「共同物流」</p> <p>2. 施設見学会 1) 第 5 回研究会 「㈱ブリヂストン 東京工場見学」</p> <p>3. その他 1) アンケートの実施 (メンバー登録時、各会合終了時、及び 2006 年度 (第 1 回～第 4 回) の全体評価) の計 6 回実施 2) ブログの開設 (URL : http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/)</p> <p><アウトプット> 『2006 年度 グリーン物流研究会 活動報告書』 ・ 第 1 回から第 5 回の研究会の発表内容等のサマリー及び配布資料を掲載</p>	<p>1. 研究会及び施設見学会の実施 (8 回) 1) 研究会・・・6 回 2) 施設見学会・・・2 回</p> <p><アウトプット> 『2007 年度 グリーン物流研究会 活動報告書』 (仮称) の作成 (2007 年度) ・ 各会合の発表内容等サマリー ・ 配布資料</p>
<p>CO2削減推進委員会 (登録人数: 57 名)</p>	<p>各企業の CO2 削減を推進するため、改正省エネルギー法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業とのパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 「改正省エネ法」への対応 1) 改正省エネ法におけるエネルギー使用量算定等に関する取組状況及び問題、課題の収集 2) 荷主及び輸送事業者が、CO2 排出量削減のための施策立案等のヒントとなる情報収集 ⇒委員会メンバーを対象としたアンケート調査を実施し、荷主・子会社から 52 事例、輸送事業者から 20 事例を収集。</p> <p><アウトプット> 『改正省エネ法対応ヒント集 ver. 1』 (2006 年度) 1) 省エネ法の概要の紹介 2) 荷主のエネルギー使用量の算定等に関する取組の際のヒントの掲載 * 特定荷主該当有無とは関係なく、改正省エネ法に準拠して算定を実施したい荷主や、荷主からのデータ提供要請への対応方策を検討したい輸送事業者のための情報を掲載 3) 輸送に係るエネルギー使用量削減のための留意ポイントの紹介 * 1 輸送区間 (もしくは 1 運行) における CO2 排出量削減のために必要となる視点を整理</p>	<p>1. 改正省エネ法対応 1) 定期報告書及び計画書作成等を踏まえて、問題、課題を抽出、整理し、行政へ提言を出す。</p> <p>2. パートナーシップによる改善活動の推進 1) 削減のための留意ポイントの因果関係等の整理 2) その他</p> <p><アウトプット案> 『荷主と物流事業者の連携による改善活動の推進ガイドライン』 (仮称) (2007 年度)</p>

研究会/委員会	活動方針	2006 年度活動内容	2007 年度活動計画（案）
グリーン サプライチェーン推 進委員会 （登録人数：32名）	<p>製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業間で問題、課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 物流における環境負荷低減のための取引条件改善方策の検討</p> <p>1) 既存調査資料のレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期省資源ロジスティクス推進委員会 調査報告書（2005年度） ・「商慣行の改善と物流効率化に関する基礎調査」（2003年度～） <p>⇒「多頻度小口配送」に焦点を絞って検討をすすめることとする。</p> <p>2) 多頻度小口配送に関する各主体の捉え方の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会メンバーを対象にアンケートを実施し、各主体の捉え方の把握 ・加工食品に関しては、第1期ヒアリング結果を加味して、整理 <p>3) アウトプットの方向性検討</p> <p>⇒多頻度小口配送削減の一方策と考えられる共同配送推進のためのガイドの作成を行う。</p> <p>4) 共同化推進プロセスの整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の共同化推進マニュアルをレビューし、共同化推進プロセスとともに共同化の成功要因等を整理 	<p>1. 物流における環境負荷低減のための取引条件改善方策の検討</p> <p>1) ヒアリング調査等により、実態把握及び課題抽出</p> <p>2) 上記を踏まえ、実効性及び汎用性が伴う共同化推進プロセスの整理（従来の評価項目に加え、環境の評価項目を加えた形の整理）</p> <p>3) 行政等への提言</p> <p><アウトプット案> 『多頻度小口配送見直しによる環境にやさしい共同配送推進ガイド』（仮称）（2007年度）</p>
		<p>2. 源流管理</p> <p>1) 第1期活動のレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ロジスティクス源流管理マニュアル（Ver.1）」及び「ロジスティクス源流管理マニュアル（Ver.2）～モダリティシフトチェックシート・資料集～」のレビュー <p>2) 源流管理として捉える範囲等の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境会議として捉えてきた源流管理の定義の確認 <p>① 物流部門そのものが環境負荷発生源であるという認識のもと、管理を行うこと。</p> <p>② 物流、ロジスティクス分野の環境負荷低減のため、上流部門（企画、設計等）、関連部門等（営業部門等）から管理を行うこと。</p> <p>（→物流、ロジスティクス部門（物流事業者）が上流部門、関連部門等へ積極的に要請、提案すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源流管理の視点として必要な項目について、分科会メンバーへアンケート調査 <p>3) アウトプットの方向性、ねらい等の確認</p> <p>⇒源流管理全般にわたるチェック項目の策定</p> <p>4) チェック項目の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LEMSチェックリスト*を叩き台に検討を進める。 	<p>2. 源流管理</p> <p>1) チェック項目の検討</p> <p>2) 評価基準の検討</p> <p>3) チェック項目に関する参考となる情報の収集及び掲載</p> <p><アウトプット案> 『グリーンロジスティクス推進チェックシート』（仮称）（2007年度）</p>

* LEMSチェックリスト…ロジスティクス分野における環境負荷低減活動に取り組む企業を増やすことを目的に、企業が当該活動を進めるためのガイドラインとして2001年に作成したもの。2003年度に1度改訂がなされ、現在111項目

資料2-2
2007.3.15

第2期ロジスティクス環境会議 第2回本会議

グリーン物流研究会

活動方針

- 環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策を研究する

グリーン物流研究会の概要

- 研究会メンバー

90名

- 運営上の工夫

- ・講演概要の作成及び事前送付

- ・アンケートの実施(計6回)

- ・ブログの開設

<http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/>

- ・活動報告書の作成

2006年度活動内容

図表1 2006年度活動内容

会 合	開催日	テーマ	参加人数
第1回	2006年9月25日(月)	ロジスティクスと環境	69名
第2回	2006年10月26日(木)	改正省エネルギー法(荷主対応)	66名
第3回	2006年11月30日(木)	鉄道へのモーダルシフト	57名
第4回	2007年1月25日(木)	共同物流	51名
第5回	2007年3月5日(月)	(株)ブリヂストン 東京工場見学会	32名

* 延べ13人の講師、1企業にご協力いただき、研究会を実施

* 第2回及び第3回は、行政(オブザーバー)を招き、パネルディスカッションを実施

2006年度活動内容

第1回 ロジスティクスと環境

経営から現場まで首尾一貫した活動の重要性を認識

第2回 改正省エネルギー法(荷主対応)

改正省エネルギー法への対応を通じて、省エネ活動によるコスト削減等の経営的な成果が得られることを認識

第3回 鉄道へのモーダルシフト

荷主と物流事業者が協力し、地道に可能性をさぐる事が、鉄道輸送化の成功要因であることを認識

第4回 共同物流

環境負荷低減やコスト削減などのメリットを参加者全員が享受できるスキーム作りの必要性を認識

第5回 現場見学(株ブリヂストン 東京工場)

トラック輸送で必ず使用されるタイヤによる環境負荷低減の余地を認識

2007年度活動計画(案)

■ 【活動(検討)内容】

1) 研究会(講演会形式6回)

(企画テーマ案)

- ・現場改善(物流効率化と環境負荷低減の両立に向けた改善活動)
- ・省エネ法関係(省エネ活動を進めるための省エネ計画)
- ・イノベーション(環境負荷低減に資する技術開発動向の紹介)
- ・グリーン物流パートナーシップ モデル事業採択事業の紹介
- ・NOx、PM法関係
- ・包装資材削減

⇒環境会議メンバー、オブザーバーの方にご協力いただきたい。

2) 見学会(2回)

■ 【活動成果】

『2007年度 グリーン物流研究会 活動報告書』

2007年度活動計画(案)

■ 情報共有の継続、活性化

アンケートによるコミュニケーションの継続

ブログによる双方向コミュニケーションの充実

(ブログの内容)

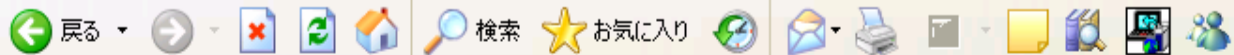
- ・研究会の概要の紹介

- ・環境問題に関する資料等の紹介

- ・トピック的な話題の提供等

⇒研究会メンバーに限らず、閲覧、書込可

グリーン物流研究会 ブログ



アドレス(D) <http://plazarakuten.co.jp/greenlogistics/diary/200702190000/>

移動 リンク

インフォシーク 楽天

コストや環境負荷をオープンに (ジャンル: そのほか) 楽天ブログ(Blog) 003615

[ブログ](#) / [フォト](#) / [SNS](#) | [ブログ検索](#) | [ロコミ](#)

[【ログイン】](#) | [【ブログ作成】](#)



グリーン物流研究会の活動記録です

[HOME](#) | [DIARY](#) | [PROFILE](#) | [AUCTION](#) | [BBS](#) | [BOOKMARKS](#) | [SHOPPING LIST](#)

グリーン物流研究会の活動日記

[| << 前へ](#) | [次へ >> |](#) [一覧](#) | [コメントを書く](#)

Calendar

February 2007

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

[< Back](#) | [This month](#) | [next >](#)

Keyword Search

[このブログ](#) [楽天ブログ](#) [買い物](#) [Web](#)

で検索

Category

2007.02.19

コストや環境負荷をオープンに

[研究会]

研究会幹事の日本総研、下村です。今日(2/19)はJLSさん主催のシンポジウムがあります。テーマは『取引条件』です。つまり、『売り手・買い手が協力して取引条件を改善し、ロジスティクス面の環境負荷を軽減しよう』というものです。『取引条件』とは配送頻度や発注ロット、などを指しています。

「売り手・買い手」は「供給側と購買側」でも良いし、「発荷主・着荷主」でも良いと思いますが、いずれにしても環境負荷軽減という共通の目標を設定して、サプライチェーン上のパートナーシップを再構築していこうという試みです。これについて、私見を述べてみます。

■いくつかの取引条件、あるいは商慣習は、日本の流通効率を悪くする原因と考えられてきました。そのため、80年代以降の日米構造協議の中で取り上げられたこともありました。外圧も受けながら、長い間の業界の努力があって、今では建値制がオープン価格に変わり、各種リベートが簡素化されるといった成果が出ています。消費財サプライチェーンの構造変化は、こうした商慣行の見直しの結果として得られたと考えてよいでしょう。

資料2-3
2007. 3. 15

第2期ロジスティクス環境会議 第2回本会議

CO2削減推進委員会

活動方針

各企業のCO2削減を推進するため、改正省エネ法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業とのパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討する。さらに必要に応じて、行政、団体等の関係者への提言を行う。

2006年度の活動内容

- 1)改正省エネ法への対応
 - ・改正省エネ法におけるエネルギー使用量算定等に関する取組み状況及び問題、課題の収集
 - ・荷主及び輸送事業者にとって、CO2排出量削減のための施策立案等の参考となる情報収集
- ⇒委員会メンバーを対象にアンケート調査を実施し、荷主・子会社21社から52事例、物流事業者8社から20事例を収集

活動成果

アンケート調査結果で収集した事例を基に、

「改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)」を作成

＜特長＞

- ・データ把握方法、算定方法に関して、具体例を用いた解説
- ・多くの事例を掲載(荷主・子会社 52事例、輸送事業者20事例)
- ・詳細情報等のURL掲載

⇒広く産業界に紹介することで、改正省エネ法の報告義務の有無にかかわらず、エネルギー使用量等の算定を行い、省エネ活動推進の一助としていただく

⇒**ロジスティクス環境宣言**の実現のためのツール

改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)

■ 1. 改正省エネ法の概要(P1～6) (主な内容)

- 省エネ法における運輸分野に係る措置の概要
- 荷主判断基準
- 輸送事業者判断基準
- 2007年4月以降のスケジュール

⇒改正省エネ法にかかわる基本的事項を紹介

改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)

■ 2. 荷主のエネルギー使用量の算定について (P7~34)

(主な内容)

- ・算定式の解説
- ・必要となるデータ及び係数
- ・算定例
- ・データ把握方法
- ・算定式による差
- ・按分
- ・エネルギー使用量と密接な関係を持つ値

⇒特定荷主にかかわるエネルギー使用量算定に関する
事項の整理

算定例(ヒント集P8~9)

図表2-4 燃料法による算定例

1. エネルギー消費量算定区間等	
ルート	〇〇物流センター(埼玉) → PP物流センター(群馬) → 〇〇物流センター(埼玉)
使用している燃料	■軽油、□揮発油、□LPG(液化石油ガス)、□CNG、その他()
輸送区分	■委託輸送 □自家輸送
車種	■貨物自動車 □その他()
最大積載量(kg)	□~999、□1,000~1,999、□2,000~3,999、□4,000~5,999、□6,000~7,999、 □8,000~9,999、■10,000~11,999、□12,000~16,999、 □軽貨物車、□その他()、□不明
運行形態	■貸切便 □混載便 □その他()
輸送頻度	週7回(毎日配送)

2. 算定

1) データ

①算定期間 2006年9月1日～9月30日

②データの種類及び算定値

データ (式の項)	性格(実測/ /推定)	取得方法(自社/他社)	取得範囲	取得(集計) 期間	値
燃料 使用量	<input type="checkbox"/> 実測 <input checked="" type="checkbox"/> 推定 <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 自社 <input checked="" type="checkbox"/> 他社 C0社D0営業所の月間購入 量から算定した燃料使用量	1ルートの 値	1ヶ月毎にデ ータ集計	336 ℓ

(計算式)

エネルギー使用量 (GJ) = 燃料使用量 (kℓ) × 単位発熱量 (GJ/kℓ) より

$$336 (\ell) \times 1/1,000 \times 38.2 (\text{GJ/k}\ell) = 12.8352 (\text{GJ})$$

エネルギー使用量 12.8GJ

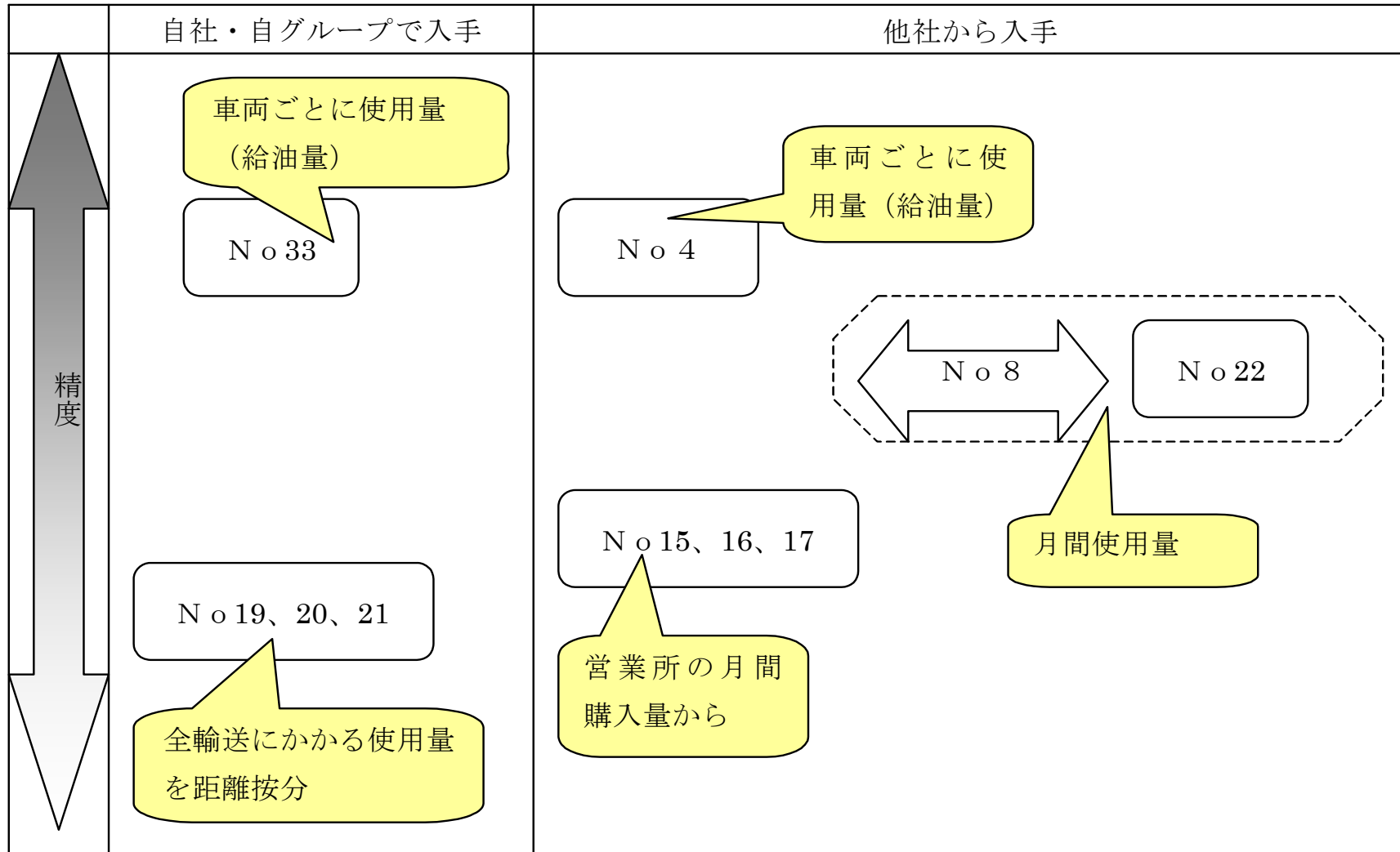
* 336(ℓ) × 1/1,000 という計算をする理由は、kℓ単位にするため。(336ℓ = 0.336kℓ)

(上記補足説明)

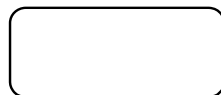
- ・燃料使用量は C0 社 D0 事業所の当該ルート使用車両の月間燃料購入量から算定したものであり、OO物流センター→PP物流センター→OO物流センターのルートの燃料使用量データではないが、当該車両は上記ルートのみを走行していると見なし、燃料購入量を燃料使用量として提供していただいている。
- ・当社配送車両はその帰り便(ルートのPP物流センター→OO物流センター)にも梱包資材であるパレットやトートボックス等を引き取ってOO物流センターに配送を行っている。

把握方法(ヒント集P10)

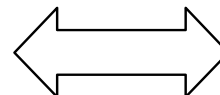
図表 2-6 燃料使用量の把握方法



凡例



荷主・子会社の事例



物流事業者の事例

記号内に記載されているNOは、付録の事例集の左列のNOに対応しております。

エネルギー使用量と密接な関係を持つ値(ヒント集P31)

図表2-29 エネルギー使用量と密接な関係を持つ値として選定予定の指標について

指標	回答企業数	構成比
輸送トンキロ	5	38.5%
売上高	1	7.7%
生産高	1	7.7%
売上高、生産高	1	7.7%
取扱高	1	7.7%
販売数量	1	7.7%
出荷質量	1	7.7%
輸送重量	1	7.7%
特定荷主に該当しない	1	7.7%
計	13	100.0%

* 荷主・子会社連名による回答1

⇒選定理由については、図表2-30参照

改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)

■ 3. 輸送に係るエネルギー使用量削減のための留意ポイント(P35～37)

(主な内容)

- 算定方法と削減施策の関係
- 算定範囲と削減施策の関係
- 削減に関する考え方と現場指標

改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)

(付録)

- アンケート調査の概要
- アンケート調査票
- 調査結果
- **事例集(荷主・子会社/物流事業者)**

⇒すべての事例について、原則として調査票に記入したとおり掲載することで、より詳細を知りたいと考える読者の要望に応える

2007年度活動計画(案)

■ 【活動(検討)内容】

- ・改正省エネ法 告示等に関する提言
定期報告書、計画書作成及び提出等も踏まえ、
問題、課題を収集、整理し、行政へ提言を行う。
- ・パートナーシップによる改善活動の推進
削減のための留意ポイントの因果関係の整理
- ・その他

■ 【活動成果】

『荷主と物流事業者の連携による
改善活動推進ガイド』(仮称)

資料2-4
2007. 3. 15

第2期ロジスティクス環境会議 第2回本会議

グリーンサプライチェーン 推進委員会

活動方針

- 製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業間で問題、課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

⇒具体的には、2つの分科会を設置し検討を進める

- ①取引条件分科会
- ②源流管理分科会

グリーンサプライチェーン推進委員会

取引条件分科会

2006年度の活動内容

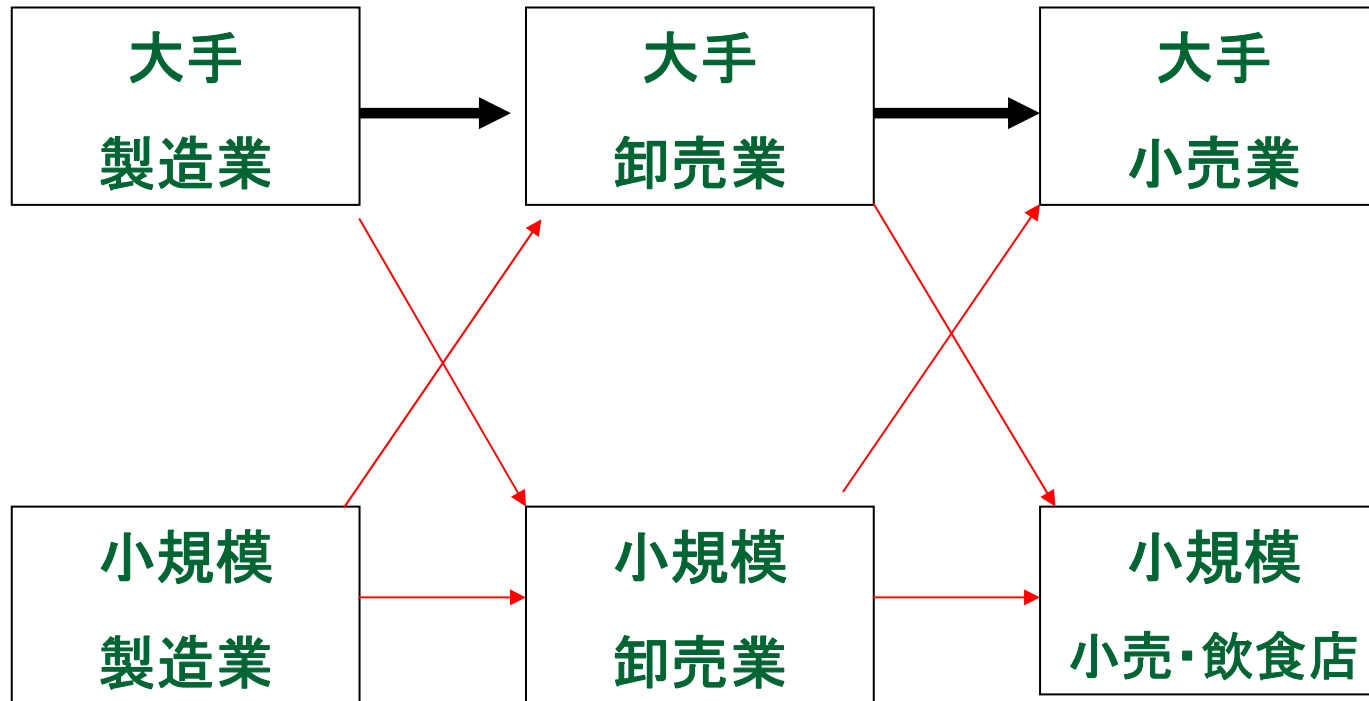
- 1) 既存調査のレビュー
 - 第1期省資源ロジスティクス調査委員会 調査報告書
→ヒアリング調査等を実施。優先的に取組むべき取引条件として、「多頻度小口配送」「時間指定納品」「リードタイム」をあげる。

 - 商慣行の改善と物流効率化に関する基礎調査報告書
(国土技術政策総合研究所の委託によりJILSが実施)
→マクロベースで取引条件改善効果を推計した結果、物流効率化の効果としては「多頻度小口配送」が最も大きい。
- ⇒上記等を踏まえ、当分科会として「多頻度小口配送」に焦点をあてて検討をすすめる。

2006年度の活動内容

- 2) 多頻度小口配送に対する各主体の捉え方の整理
 - ・分科会メンバーを対象にアンケートを実施し、各主体の捉え方を整理
(分科会メンバーが属していない部分については、第1期ヒアリング結果より抜粋)

加工食品を取り扱う各主体の多頻度小口配送等の捉え方の概念図



【凡例】



多頻度であるが
比較的大ロット

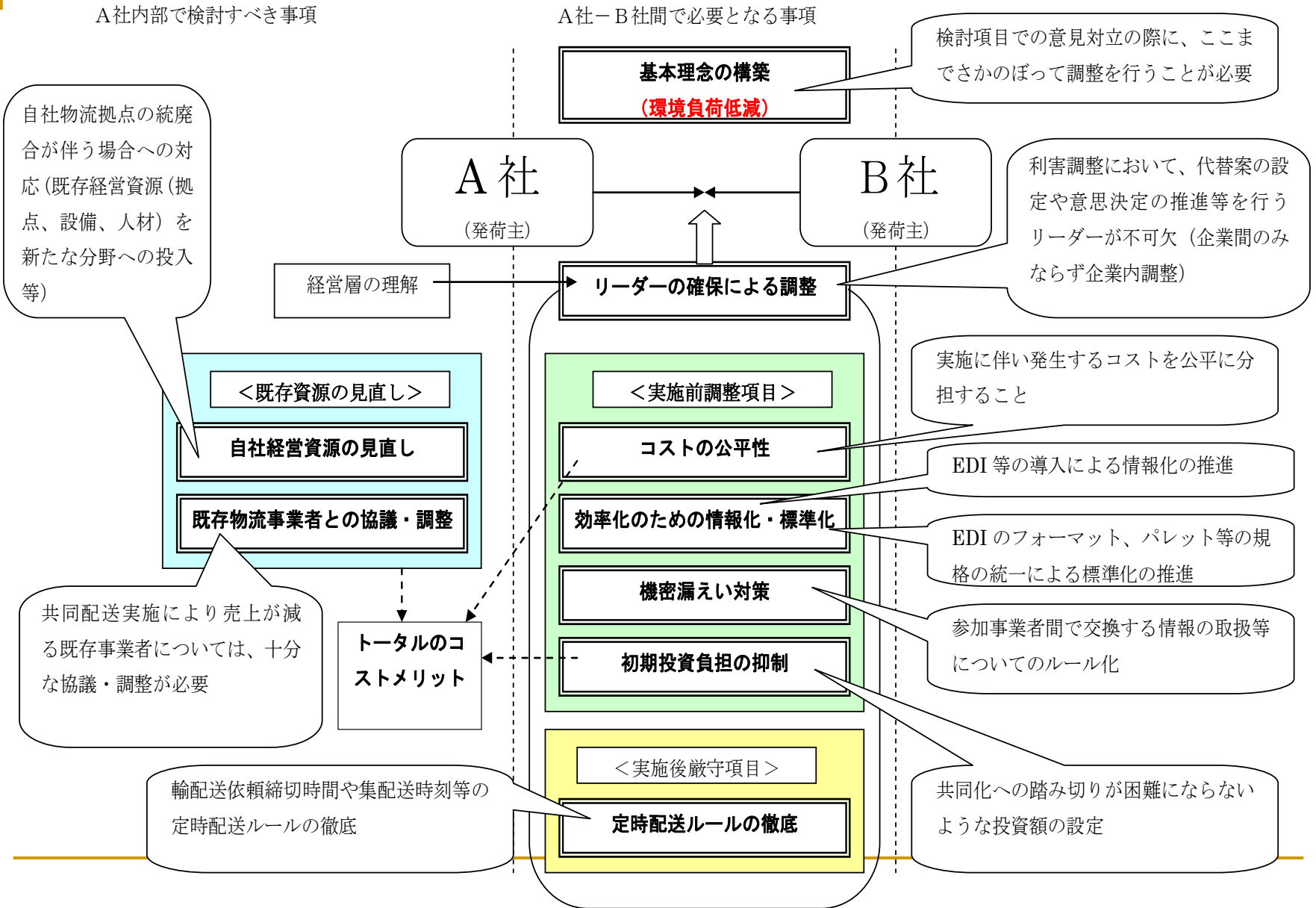


多頻度小口の可能性
が比較的高い

2006年度の活動内容

- 3) アウトプットの方向性検討
 - 多頻度小口配送削減の一方策と考えられる、共同配送推進のためのガイドの作成を行う
 - 加工食品をモデルとするが、応用性のあるものを目指す。
- 4) 共同化推進プロセスの整理
 - 既存の共同化推進マニュアルをレビューし、共同化推進プロセスとともに、共同化の成功要因等を整理

発荷主主導の共同化の成功ポイント



2007年度活動計画(案)

■ 【活動(検討)内容】

- ・ヒアリング調査等により、実態把握及び課題抽出
- ・上記を踏まえ、実効性及び汎用性が伴う共同化推進プロセスの整理
(従来の評価項目に加え、環境の評価項目を加えた形の整理)
- ・行政等への提言

■ 【活動成果】

『多頻度小口配送削減による

環境にやさしい共同配送推進ガイド』(仮称)

グリーンサプライチェーン推進委員会

源流管理分科会

2006年度の活動内容

- 1) 第1期源流管理委員会アウトプットのレビュー
 - ・「ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver. 1)」
→荷主企業のロジスティクス、物流部門、並びに物流企業が自ら環境負荷の発生源としての認識を持ち、物流諸活動における環境負荷を最小限にとどめるための管理ポイントをマニュアル形式としてまとめている。

 - ・「ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver. 2)
～モーダルシフト推進チェックシート・資料集～」
→モーダルシフトを検討、計画する際に考慮すべき事項等、検討プロセスに沿ったチェックシート、関連データを盛り込んだ資料集としてまとめている。

2006年度の活動内容

- 2) 源流管理の範囲等の確認
 - 環境会議として捉えてきた「源流管理」の定義の確認
 - ① 物流部門そのものが環境負荷発生源であるという認識のもと、管理を行うこと。
 - ② 物流、ロジスティクス分野の環境負荷低減のため、上流部門、関連部門等から管理を行うこと。
(⇒物流、ロジスティクス部門(物流事業者)が上流部門、関連部門等へ積極的に要請、提案すること)
 - 分科会メンバーに、源流管理の視点から管理等が必要となる項目についてアンケート調査

2006年度の活動内容

- 3) アウトプットの方向性の検討
 - ・ 当分科会として作成するアウトプットの方向性を議論
- ⇒ グリーンロジスティクスを推進するための項目が記載されたチェックリストを作成する。

チェックリストのねらい

- 本分科会では、ロジスティクス分野における環境負荷を低減し、循環型社会を実現するロジスティクスグランドデザイン実現の一助となるためのチェックリストを作成する。なお、本チェックリストの具体的なねらいは以下のとおりとする。

チェックリストのねらい

- 1. 自社のグリーンロジスティクスに係る取組のレベル(到達度合い)を図るツール

企業において、毎年1回チェックを行い、①前年度との比較、②他社(全体)結果との比較により、自社のグリーンロジスティクスに係る取組レベル(位置づけ)をある程度客観的に図れるツールとする。

- 2. グリーンロジスティクスの活動内容及び領域を示すツール

グリーンロジスティクスについての具体的な活動内容及び活動領域について、多くの企業に理解を深めていただくツールとする。

- 3. ロジスティクス環境宣言の実現に向けたツール

ロジスティクス環境宣言にある「環境負荷低減に取り組む企業を増やす」ため、企業規模、業種問わず、多くの企業において、上記1及び2として有効なツールとする。

(参考)ロジスティクス環境宣言

- **1. 自らの環境負荷を低減する**
 - 自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

- **2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす**
 - 関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

- **3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する**
 - 活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

2006年度の活動内容

■ 5) チェック項目の検討

LEMSチェックリスト*を叩き台として、チェック項目の検討に取り掛かる。

* LEMSチェックリスト…ロジスティクス分野における環境負荷低減活動に取り組む企業を増やすことを目的に、企業が当該活動を進めるためのガイドラインとして、2001年にJILSが経済産業省の委託調査事業の一環として作成。2003年度に改訂がなされ、現在111項目のチェック項目がある。

2007年度活動計画(案)

■【活動(検討)内容】

- ・チェック項目の検討
- ・評価基準の検討
- ・チェック項目に関係する参考となる情報の掲載

■【活動成果】

『グリーンロジスティクス

推進チェックリスト』(仮称)

情報提供活動について
(2006年度活動報告と2007年度活動計画(案))

1. 2006年度の活動内容

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について以下のような情報発信を行った。

(1) 『CGLニュース』(電子メール)

- ・速報的内容として、下記10号発信

Vol.1 2006年8月11日

- ・第1回本会議 開催報告
- ・シンポジウム「動き出した、グリーン物流社会への国民運動」ご案内

Vol.2 2006年11月1日

- ・グリーン物流研究会、CO2削減推進委員会、グリーンサプライチェーン推進委員会活動報告
- ・グリーン物流パートナーシップ会議 シンボルマーク名称募集

Vol.3 2006年11月8日

- ・日本交通研究会シンポジウム「物流マネジメント実現のために、何をすべきか」ご案内

Vol.4 2006年11月29日

- ・12月1日受付開始 第5回グリーン物流パートナーシップ会議
- ・グリーンサプライチェーン推進委員会、CO2削減推進委員会活動報告

Vol.5 2006年12月11日

- ・第5回グリーン物流パートナーシップ会議 開催案内

Vol.6 2006年12月27日

- ・第5回グリーン物流パートナーシップ会議 開催報告
- ・CO2削減推進委員会、グリーン物流研究会活動報告

Vol.7 2007年1月18日

- ・第1回グリーン物流基礎コースのご案内

Vol.8 2007年1月22日

- ・ロジスティクス環境シンポジウムのご案内

Vol.9 2007年1月29日

- ・「今後の自動車排出ガス総合対策について(最終報告案)」に関する意見の募集(パブリックコメント)について

Vol.10 2007年2月7日

- ・平成19年度グリーン物流パートナーシップ推進事業について

(2) 『CGLジャーナル』(冊子)

- ・各委員会の活動状況を集約し、半年に1回発行
⇒2007年4月上旬、ジャーナル発行予定
(2006年度活動内容等を中心に掲載予定)

2) イベントの実施（シンポジウム、フォーラム等）

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

(1) シンポジウムの開催

i) タイトル

ロジスティクス環境シンポジウムー取引条件の見直しによる環境負荷とコストの改善ー

ii) 概要

■日 時：2007年2月19日（月） 13:30～17:00

■会 場：ベルサール三田／東京・港区

■参加料金：無 料

■参加人数：98名

■主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

■後 援：経済産業省、国土交通省、(社)日本経済団体連合会、(社)日本物流団体連合会

ii) プログラム

13:30～13:35 (5分)	開催にあたって「ロジスティクス環境会議からのメッセージ」 山本 明弘 氏／ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 委員長 (株)日通総合研究所 物流技術環境部 環境グループ 担当部長)
13:35～14:20 (45分)	基調講演：「取引条件の見直しによる環境負荷とコストの改善」 林 克彦 氏 流通科学大学 商学部 教授
14:20～15:05 (45分)	事例発表：「中間流通業の立場からみた取引条件の現状と今後の方向性」 永井 幸雄 氏 中央物産(株) 代表取締役専務
15:05～15:15 (10分)	(休憩)
15:15～17:00 (105分)	パネルディスカッション：「環境負荷とコスト改善に向けた取引条件のあるべき姿」 【主な論点】 ・ 物流サービスレベルの「見える化」による効果 ・ 取引条件変更を実施する際の課題（社内の合意形成、取引先への説得） ・ 現状の課題と今後のあるべき姿 <コーディネータ> 根本 敏則 氏 一橋大学 大学院 商学研究科 教授 <パネリスト> ※五十音順 恒吉 正浩 氏 味の素(株) 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長 戸成 司朗 氏 (株)西友 執行役シニア・ハイス・プレジデント 『流通推進本部』担当 永井 幸雄 氏 中央物産(株) 代表取締役専務 根本 重之 氏 拓殖大学 商学部 教授 (財)流通経済研究所 理事 浜辺 哲也 氏 経済産業省 商務情報政策局 流通政策課長
17:00	閉会

* 役職は開催時点のもの

2. 2007年度の活動計画（案）

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による情報発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、引き続き以下の媒体を用いて、情報発信を行う。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

- ・速報的内容とし、24回発信予定

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

- ・各委員会の活動状況等を集約し、2号発行予定

2) イベントの企画（シンポジウム、フォーラム等）

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

- ・上期（2007年8月から9月）1回、下期（2008年1月から2月）1回 開催予定

以 上

J I L Sにおける環境関連の主な取り組みについて

1. 取組の経緯

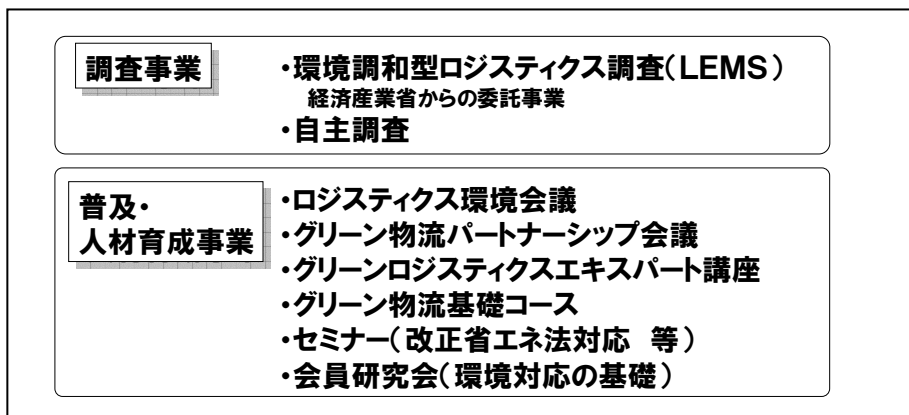
J I L Sでは、1997年よりロジスティクス分野における環境に関する取組を始め、2003年にロジスティクス環境会議を設立し、荷主企業と物流企業の連携による課題解決方策等を進めている。

さらに、2005年4月に協会内に「ロジスティクス環境推進センター」を設置し、協会としてより積極的な活動を推進している。

2. J I L Sにおける環境関連事業

J I L Sにおける環境関連事業としては、主に①調査事業、②普及・人材育成事業があげられる。それぞれの内容については、図表1のとおりである。

図表1 J I L Sにおける環境関連事業



3. 環境に関する人材育成事業

J I L Sでは、企業において環境負荷低減活動を進めるにあたっては、それを実行する人材の育成も非常に重要であるという認識のもと、2005年度より人材育成プログラムの開発を進めてきた。

現在の概要は図表2のとおりである。

図表2 J I L Sにおける環境に関する人材育成事業の概要

